

観光交通量の推定について

京都大学工学部 正員 佐佐木 綱
 京都大学大学院 学生員 ○住田 陸快

1. はじめに

わが国の経済のめざましい成長は所得および消費水準の向上をもたらし、教養文化の水準の向上とあいまって、近年ますます娯楽レクリエーションの意欲が一般に高まってきた。最近のいわゆるレジャー・ゲームがそれを端的に物語っているが、なかなしく余暇利用の中心たる観光は、その対象となる観光地、観光資源の開発に各関係者が力を入れ、かつ交通面においての交通機関の利便の向上、既存道路の整備、新設の観光道路などによってますますその需要をましている。

一方、わが国の保有自動車数の推移をみると、昭和41年1月末現在、総保有台数は796万台で、内訳は貨物用が459万台、乗用が221万台であるが、10年前にくらべての伸び率では貨物用の約5倍に対し、乗用車が約11倍と圧倒的な伸びを示している。観光需要の増大とともにこのような乗用車による観光は当然増大し、最近の休日の観光地の道路、駐車場の混雑はそれを如実に物語るものであろう。

本研究では時代の要求とでもいうべき自動車による観光交通量を推定し、すでに制定されている観光基本法にもうたわれている「国民の経済の発展と国民生活の安定向上に寄与」せんがため、将来の道路計画にあたっての重要な指針とすることを目的とする。

2. 観光交通の特質

観光交通は一般自動車交通と比較して、いろいろな特質をもつと考えられるが、ニ三挙げてみよう。

1) ODパターン

都市内自動車交通のODパターンは1日完結性をもって定常的なマルコフ連鎖として表わされるが、観光交通はトリップエンスが一都市内に限られることは少ないとはいえ、一般には1日完結性(日帰り)を有するものと考えられ、したがってODパターンの対称性がえられるものと思われる。

つぎに観光内容を季節的に分けて特徴を挙げると、春はお花見、社寺見学、夏は海水浴、納涼、魚つり、秋は紅葉狩、社寺見学などが主なものであろう。このように観光地によって観光客の変動が季節的に一定のパターンを示し、したがって観光交通量も季節ごとに一定のパターンを示すものと予想される。さらに季節の変動に対して、日帰りの場合には時間帯による変動が著しいことがある。このようなODパターンを定量的に解析することが今後の課題である。

2) 車種構成

一般交通には貨物用、乗用のほか乗合、特殊車など種々の車が混合しているが、観光交通ではあとの例でもわかるように、乗用車利用が圧倒的に多くトラックは少ないのが特徴となっている。

3. 電話訪問による調査例

1) 調査方法・項目

調査は近畿8府県を対象として、京都・大津・奈良・和歌山・津・四日市の各都市についてすでに調査済みであるが、大阪・神戸・福井の各都市については未調査である。調査方法は各都市の電話帳から任意の電話番号を抽出し、市内から電話訪問し下記の5項目について質問した。

- (1) 自家用車の有・無 (2) 車種 (3) 休日使用の当・否 (京都市・8月14日、他の都市・8月21日) (4) 休日使用状況(観光・商用・その他) (5) 観光行先地

2) 調査結果の解析

上記5項目の質問事項に対する回答を整理したのが下の表である。表中休日使用、観光使用の欄のかっこ内はそれぞれ、自家用車所有、休日使用に対する割合(%)であり、それ以外のかっこ内はその欄の構成比を示す。この表からわかるように自家用車所有者のうち約32%が休日に使用し、さらにそのうちの約68%が観光としてレジャーを楽しんだことになる。また観光使用についての車種構成をみると、約75%が普通、小型乗用車であり、あとライトバン、軽自動車がほぼ半々である。つぎに観光行先地別にみると京都市では他の都市が県内へのトリップが最も多いのに対し、滋賀・福井の両県への割合が圧倒的に多いことは、いずれも調査対象日が海水浴シーズンにあるため海水浴場へのトリップが多い傾向を示しているといえよう。

なおこの種の観光調査は従来皆無であり、今後種々のタイプの調査を行ない、観光交通量推定についての理論的考察を加えるつもりであるがそれについては当日発表する。

近畿6都市電話訪問観光調査結果表

	サンプル数	自家用車有	休日使用	観光使用	車種			商用その他	観光行先地													
					乗用車	軽自動車	トラック		大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	三重県	滋賀県	福井県	山陽地方	山陰地方	四国地方	中部地方	東北方面	九州地方
京都市	1,648	716	285 (40)	214 (75)	178 (83)	23 (11)	13 (6)	71	4 (1.9)	34 (15.9)	20 (9.3)	6 (2.8)	5 (2.3)	10 (4.7)	63 (29.4)	43 (20.1)	1 (0.5)	2 (0.9)	2 (0.9)	21 (9.8)	1 (0.5)	2 (0.9)
大津市	441	174	58 (33)	38 (66)	25 (66)	3 (8)	10 (26)	20	2 (5.3)	13 (34.3)	1 (2.6)	2 (5.3)	0 (0)	1 (2.6)	18 (47.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.6)	0 (0)	0 (0)
奈良市	564	184	53 (29)	32 (60)	20 (63)	5 (15)	7 (22)	21	6 (18.8)	5 (15.6)	1 (3.1)	7 (21.9)	4 (12.5)	4 (12.5)	2 (6.3)	0 (0)	1 (3.1)	1 (3.1)	1 (3.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
和歌山市	566	273	94 (34)	63 (67)	52 (83)	4 (6)	7 (11)	31	3 (4.8)	2 (3.2)	3 (4.8)	6 (9.5)	45 (71.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.6)	1 (1.6)	0 (0)	0 (0)	2 (3.2)	0 (0)
津市	362	191	53 (28)	33 (62)	22 (67)	5 (15)	6 (18)	20	1 (3.6)	0 (0)	1 (3.6)	1 (3.6)	0 (0)	22 (66.7)	2 (6.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (18.2)	0 (0)	0 (0)
四日市市	364	155	47 (30)	34 (72)	30 (88)	3 (9)	1 (3)	13	0 (0)	1 (2.9)	0 (0)	2 (5.9)	0 (0)	18 (52.9)	1 (2.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (35.3)	0 (0)	0 (0)